

平成 29 年 2 月 24 日

意見書

足柄上商工会経営発達支援計画事業評価委員会

仁科 亮

1. 平成 28 年度経営発達支援事業(伴走型支援推進事業)の実施結果について

- ・全般に活発な小規模事業者支援活動を地域の特性を踏まえつつ行えたものと評価できる。
- ・毎週火曜金曜の午後に中小企業診断士杉本博氏を常駐させて行う経営なんでも相談室を中心とした融資や補助金申請に結び付いており、大きな効果が見られた。
- ・セミナーにおいては、参加者数が少なかったということなので、さらに金融機関や行政等との連携を深め、参加人数増加につなげられたい。
- ・当初計画では、日本酒製造業をメインにすえた地域および特産物等のブランド化を目指すものに主眼が置かれていたが、本年度においてはそのような実施内容が少なかった。

2. 平成 29 年度経営発達支援事業 伴走型支援推進事業について

- ・平成 28 年度におこなわれた事業を見直し、個別具体的な成功要因(成果)と反省を整理して、平成 29 年も引き続き事業を実施していくことを基本として、取り組まれたい。
- ・平成 29 年度は、平成 28 年度に引き続き経営なんでも相談室を設置し、融資や補助金申請等を活発に行うことが望まれる。
- ・「アンテナショップまちの駅あしがら」を活用したテストマーケティングや商品の開発改良、地域ブランドづくりについては、まだ十分な可能性(ポテンシャル)があると考えられるので、さらに積極的な攻めの行動計画をもって実施されたい。
- ・特産物等のブランド化には、行政との連携協力体制を欠かすことができない。地域資源の活用事例やイベント等の実施状況、支援対象事業者の経営動向などについて、定期的に情報交換会や意見交換会(連絡協議会)を開催するなどして、連携協力関係を強化されたい
- ・金融機関や行政などとさらに強く連携し、各種セミナーの集客を高め、地域での創業者の増加や経営者マインドの意識喚起していくことも重要である。
- ・地域経済動向や地域資源の調査分析にはリーサス等を活用して、さらなる小規模事業者への支援につなげたい。
- ・日本酒を中心に据えた特産品づくり、イベント等の企画を活発化されたい。